

教 科	工 業	科 目	デザイン応用
履修条件 対象生徒	選択履修 デザイン科 3 学年		
学習目標	・デザイン実践（理論）と横断的に学ぶことで、確かな実践力を身に付ける。 ・環境構成デザインにおけるインテリアの内容について理解する。 ・生活の中でのインテリアの役割について理解し、住空間やパブリック空間、ディスプレイなどにおいて活用する。		
学習方法	〔授業〕 ・理論的に素材や成形方法と向き合い、アイデア抽出、イメージレイアウト、制作方法・課程、完成までを計画的に予測し、全体像を見据えた制作方法の理解を深める。 ・作品や補足資料（プレゼンテーションで提示）を用いて、授業を展開する。 〔家庭学習〕 ・美術館やインテリアショップで実際に製品を見る。		
学習計画 と ね ら い	< 1 学期末考査まで > 第 5 章 プロダクトデザイン 第 6 節 プロダクトデザイン 第 5 陶磁器 2 原料～6 焼成 〔課題 1〕 粘土層による制作 < 2 学期末考査まで > 第 6 章 環境構成デザイン 第 2 節 インテリア 第 1 インテリアとは何か 第 2 インテリアの目的 〔課題 2〕 椅子の調査・模型制作 < 学年末考査まで > 第 5 節 ディスプレイデザイン 第 1 ディスプレイデザインについて 〔課題 3〕 スペースデザイン計画 ○陶芸用の粘土層を再生し、制作物に合った素材の選別・調合を自ら行うことで、サステイナブルの観点から普段使っている素材の重要性を考える。 ○日々自然変化する天然素材に触れて、各作業工程において素材の特性や加工性を理解し、計画的に素材をコントロールする。 ○インテリアと人間生活 ○空間の快適性 ○校内にある身近な椅子を調べ、実際に座ってみて、座面の高さ、幅、背もたれの角度、材質、座り心地の長所、短所を観察し、比較の図表を作成する。作成した図表や参考資料を基に、椅子の模型制作を行い、立体的想像力を養う。 ○ディスプレイデザインと展示計画 ○与えられた条件より、その素材の特性を理解し、生かし方や見せ方を考慮し空間設計を行うことで新たな表現方法を探求する。		
評価基準	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に向かう態度
	各分野に関する技術を実際の作業に即して総合的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	各分野の技術に関する課題を発見し、各分野に携わる者として科学的な根拠に基づき構想を立て解決しようとする力を身に付けている。	各分野に関する技術の向上を目指して自ら学び、各分野の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。
評価方法	○評価の観点「知識・技術」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に向かう態度」の 3 つの観点について総合的な評価を行う。 ○学習態度・意欲・出席の状況及び提出物（作品・レポート）などを総合的に判断して評価する。		